

市民がつくる
市民が学ぶ
市民が拓く
生涯学習情報誌

Stage

月刊ステージ・アップ

up

'97

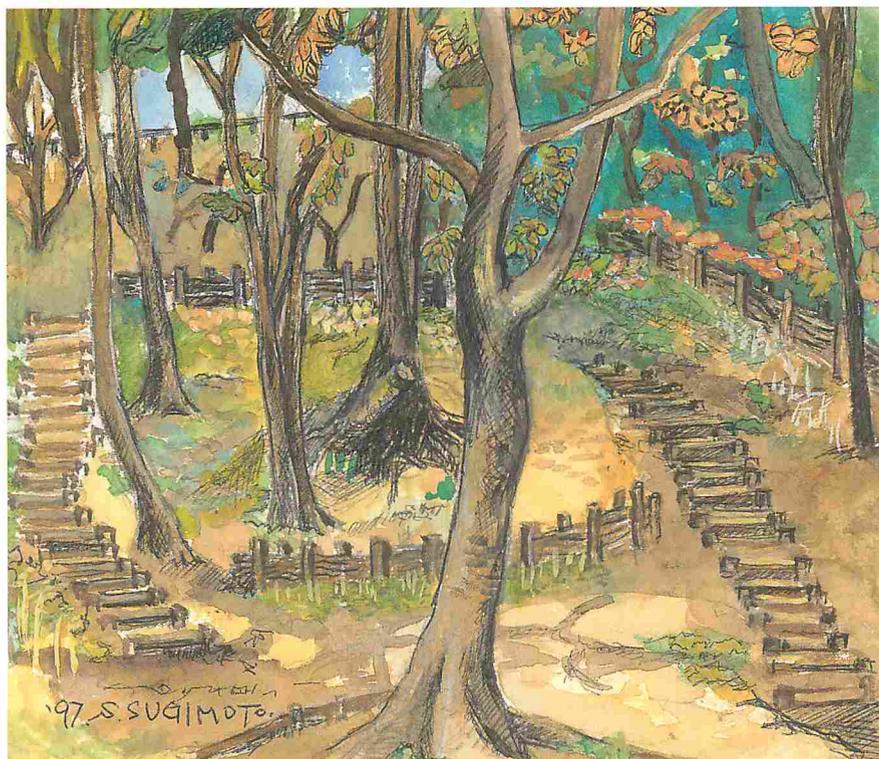
11

月号【1日発行】



いまを話す

定年前に油絵をはじめ入賞
村相 広義 さん
退職後の自分の生き方研究し
思いのままの生活空間



'97 TARO展 大胆な発想 心包む温かさ

Stage Up 11 月号もくじ/1997年

■ほんねインタビュー いまを話す 4

定年前に油絵をはじめ入賞 村相広義さん
退職後の自分の生き方研究し
思いのままの生活空間

■はりきつてます グループ紹介 8

六つの点打ちに集中する
点字サークルポツポツ会 (中原区)
体によい弁当づくりに励む
ぐみの家 (宮前区)

◆'97TARRO展に市民、ファンぞくぞくと 10

大胆な発想 心包む温かさ

●学習・文化情報 11

□会員募集/ミニニュース 14

○12月9日にチャリティーコンサート 15

□編集後記 裏表紙

◇表紙絵……秋の生田緑地 杉本 繁さん

(小誌は再生紙を使用しています)

もうすぐ60回「いまを話す」

ゲストをご推薦ください

～「すてきな人がいる」の感動づくりにあなたの声を～

読者のみなさま、小誌「ほんねインタビュー いまを話す」のゲストをご推薦ください。はがき、またはFAXをお願いします。①ゲスト氏名②ゲストの住所か勤務先、電話番号③推薦理由④あなたの住所、氏名、電話番号を記し〒215麻生区万福寺1の2の2、新百合21ビル、川崎市生涯学習振興事業団編集チームにお寄せ下さい。FAX番号は(952)1350です。

「いまを話す」は12月号で60回になります。読者の方々から「次はどんなゲストが登場するか楽しみ」「ゲストの話は、元気の出るヒントがいっぱい」「バックナンバーは、市民手づくりの人材バンク」との励ましの言葉に支えられ今日を迎えました。

「ゲスト選考が的確」との評価もいただいておりますが、ゲストの9割は皆様からのご推薦です。毎回、市内のさまざまなジャンルでご活躍の方をお迎えし、市民インタビュアーが、生き方や活動をお聴きし、今日的課題に迫ります。ご声援ください。

多彩な催し

学習の成果、学園祭に反映

かわさき市民アカデミー会員が企画した「97学園祭」が、9月10日から16日まで、新百合21ホールやアカデミー本部（中小企業・婦人会館内）などであった。学習の成果を生かした研究発表や、シンポジウム、フィールドワークなど19の多彩な催しの中からパネル・ディスカッション「住み慣れた地域で……生きるために」「……小さな朗読会」「新聞はいま何を……」などをのぞいてみた。



「住み慣れた地域でよりよく生きるために」は、高齢者福祉コースの会員企画。コーディネーターで社会福祉士、加藤美枝さんが「高齢社会の地域・環境を考え、どう実践したらよいか」と問題提起。

ミニ・デイサービス施設「コスモスの家」代表、渡辺ひろみさんは『『家』の担い手は女性がほとんど。男性も参加すると意識が変わる。地域要望に合ったデイサービス施設を数多く。地域ボランティア「いちご会」副会長、三田村宏さんは、老人ホームでのボランティア体験を「義務感でなく喜びを持ってすることが大切。体が動くうちは社会とのつながりを持つ生活ができるグループホーム」。太極拳指導者、牟田成夫さん（80）は「老いることを『衰え』とみるか『人生の総仕上げ』とみるかで心身の豊かさが違う」。「川崎ヘルスボランティアの会」代表の小川ミナトさんは「健康、経済、趣味、友人の4つを合わせることが幸せ。学び合い、支え合い、助け合う福祉の実践活動を」と発言。

会場から「元気な高齢者が、生き生きと暮らすための地域活動を」「それぞれの人が持っているものを地域に開放しよう」など活発な意見が交わされた。

ことばと映像コースの会員企画で、田辺義雅・共同通信社経済部記者が「新聞はいま何を問われているか」と題し講演した。

ダイアナ元妃の交通事故死問題を例に「国民的争点とは、職場や家庭で話題になる共通項」と規定し「橋本改造内閣や行革が国民的争点になるか」と問い掛けた。25年前のロッキード事件で収賄罪に問われ、有罪の佐藤孝行・総務庁長官の入閣について、

閣僚の実力がある、なしではなく「行革をやる資格が問われている」と批判。また「行革のキャッチフレーズがある限り、橋本政権は倒れない」との有力政治家の発言は「新聞が、橋本流行革報道に埋没していて批判が不十分。結果的に『首相頑張り』の効果となる」と述べた。

2年前、メディアは「政治改革が必要」と報道した。いまの小選挙区制のどこが政治改革だったのか。今、メディアが問われているのは、目先の動きに惑わされない取材、記事の在り方だ。「何のために新聞記者になったか」が問い直されていると話した。

星野富弘の「日々草」相田みつをの「おかげさま人生」小川未明の「金の輪」など、16編の詩や物語が心の奥まで染み入るように言葉の世界へ透ったのは「わたしたちの小さな朗読発表会」。とくに茨木のり子の反戦詩「私が一番きれいだったとき」や「木の実」がドラマチックに朗読されると目頭を押さえる観客もいて、出演者全員に大きな拍手が送られた。ことばと映像コースの会員企画。照明やBGMにも趣向を凝らした。会員を指導した劇団民藝の演出家、内山鶉さんや俳優の石原亜季さんも姿を見せた。

市民アカデミー会員・OBが企画
地域社会へ熱く温かいまなざし

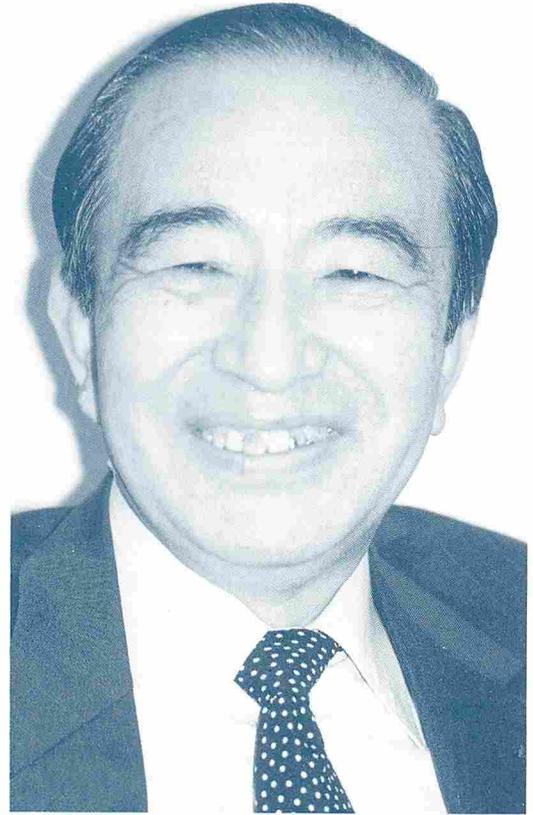
市民アカデミー会員・OBが企画

いまを話す

ゲスト

定年前に油絵をはじめ入賞
村相 広義 さん

Vol. 59

退職後の自分の生き方研究し
思いのままの生活空間

月刊「一枚の繪」の奨励賞を受賞なさった作品、見せていただきました。何年くらいおかきになつていらっしゃるんですか。

村相さん 今年で八年になりました。絵の上手、下手は年数ではなく、描いた枚数によってかなり左右されると思います。あの「諏訪湖の片倉館」(6号)は、自分がどのくらい上達したかを試してみたいと思ひ応募しました。

——初の応募で受賞されたのですね。絵は以前からお好きだったのですか。

凶悪な少年犯罪が発生するたびに「父権の復活」が叫ばれ、定年退職後は粗大ごみ扱いで「中高年は女性が元気、男は自信喪失」が常識とか。「会社に定年はあつても人生に定年はない」と麻生区の村相広義さん(65)は、定年三年前から油絵を描き始めた。絵筆を手にしたのは、高校生以来で実に四十年ぶり。昨年、美術誌の月刊「一枚の繪」に初めて応募し奨励賞を受賞した。会社人間のときには自由にならなかつた「自分の時間、自分の発想」で思いのままの生活空間を満喫する日々。そんな村相さんでも、地域社会へ目が向きはじめたのは最近のようだ。かわさきの景観を題材にした作品を描く日も遠くない。インタビューは語りの伊藤眞弓さん。

村相さん ええ。高校生のころまで水彩画を描いていました。美術の先生に「芸大に行つたらどうか」と勧められたこともありましたが「絵では食べていけない」と親の反対であきらめました。それからずーっと絵筆を手にしていませんでしたが、定年の三年前、再び手にしました。

——およそ四十年間、絵を描かなかつた方が、定年の三年前に再び絵筆をとつたのは「青春時代にやり残したことを」という意味が込められているのですか。

村相さん いや、いや、そんなロマンチックな発想からではないのです。定年三年前というのは、仕事の第一線から退いて、心にも余裕ができる時期なんです。それで「定年後どうするか」の準備段階にあてたわけです。

——人生八十年時代を積極的に生きるためのプランづくりで、なぜ絵に到達したのですか。

村相さん 定年後、時間を持て余す人もいるほどの時間的余裕があります。先程もお話しましたが、絵は描いた枚数が多ければ多いほどうまくなるわけです。また、絵は気分が乗つたら夜中に描いて、

競争でなく楽しむが大切

マイペースでやれる趣味を

朝寝坊していてもいいわけで、時間の制約を受けません。それから、画風も無制限でセオリーがない、何を描いても構わないという気楽さがあります。

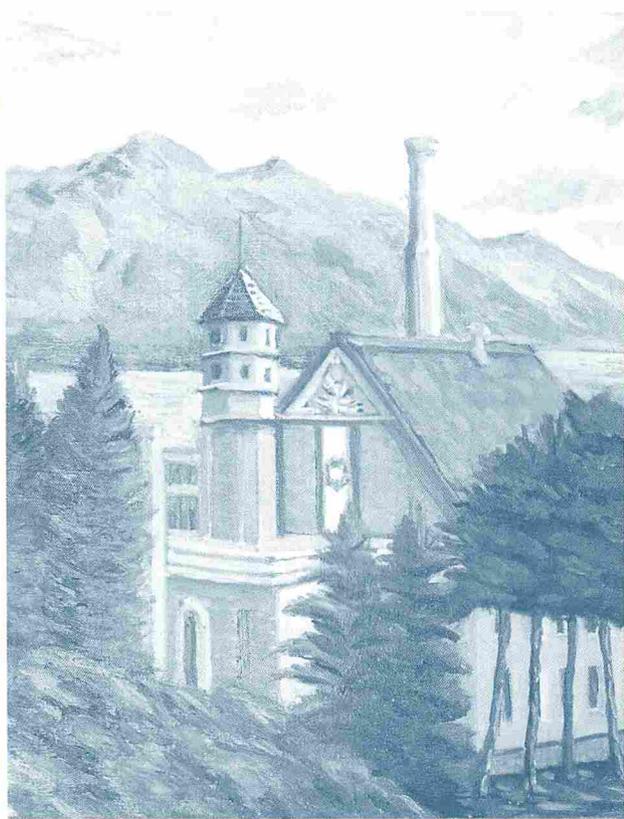
——会社人間でいる間は、自由にならなかった「自分の時間・空間・発想すべて思いのままの生活」との解放感が伝わります。少年のころ親しんだ水彩画ではなく、油絵にしたのはなぜですか。

村相さん 実は、何十年前も前の水彩の道具を持って絵の教室に行き、しばらく描いていましたが、あるとき、先生が「油絵でパンチのある絵を描いてみたら」とおっしゃったんです。それで、油の混ぜ方から習い始めました。水彩はなかなか補修が利きませんが、油絵は上からベタベタ重ねることができますから、修正ができます。これも新鮮な発見でしたね。

——油絵との出会いから八年。受賞もされプロの道に……。

村相さん いや、それはありません。絵の世界にも会派がありまして、年一回開かれる会展に十回入選して、やっと会友なんです。会員になるには、さらに十回程度入選しないと駄目なんです。

——大会派の会員にならないと世間がプロと認めないと。
村相さん 連続して入選はまずありませんから、定年後どんなに頑張っても、そういう意味でのプロ画家は不可能なんです。
——プロを目指そうと思うと、気分的に追い詰められ、先ほどおっしゃった気ままに自由とはほど遠くなりますね。
村相さん 私は楽しく大らかに日々を過ごしたい。そのために絵



月刊「一枚の繪」の「私の信州展」奨励賞受賞作「諏訪湖の片倉館」

村相 広義 さん

むらすぎ・ひろよし=1932年、東京都中野区生まれ。戦災で千葉県に移る。58年、早稲田大学理工学部を卒業。民間企業、団体役員を経て93年、定年退職。定年後の生きがいに91年、光風会系の絵画教室に入塾。96年、月刊「一枚の繪」の「私の信州展」に初公募し、奨励賞を受賞。同年12月、早稲田大OBの油絵グループ「稲美会」に入会。80年から川崎に住む。長男は独立。麻生区岡上で妻、長女の3人家族。

を描いているのですから、ときどき市美展などの公募展で腕試しをしてみようと思っっているんです。
——今ほどのくらのペースでおかきになっているんですか。
村相さん 私は月に四、五枚描きます。カルチャーセンターなどの教室で描く人は、月に一枚くらいだと思いますが。

——すごいですね。

村相さん いや、それでも大したことはいんです。ある美大の先生は「一年で百枚は描きなさい。そうすれば君の寿命は三倍に延びる」と言われているそうです。

“感性との出会い”に興奮 横社会の仲間とは心の栄養



——油絵を実際におやりになつて満足されていますか。
村相さん 私は、つくづくいい世界に入ったと思つています。ゴルフの場合、年を取りますと、フォームがきれいでも確実に振る力が衰え下手になります。絵の世界は自分のペースで描くことができ

ますし、想像もしなかつた色に出会えます。さまざまな感性と出会った瞬間、興奮するほどうれいものです。夢中になって時間を忘れる感じですね。
——本当に充実した日々を送つていらつしやる。絵をおかきになる時は、いつも一人ですか。

村相さん 週に二日間、絵の教室で仲間と一緒に描いています。会派の違う二カ所に通つています。会派が異なる先生に習いますと、筆遣いから色調までこんなに違うものかと思うこともあります。絵の世界は、基本的には教えてもらおうというより盗むものです。画家の先生からは、ちよつとしたアドバイスだけです。また、ひたすら盗む努力をします。また、もう一方の教室の先生は、美大の教授ですので、具体的な質問をすることができんです。私にとつては、その両方が必要だと思つています。
——教室で会われる仲間と、会社の同僚とは、ひと味違つた意識の方たちなのでしょうね。
村相さん ええ。絵画を描くということでは共通しているのですが、いろいろな分野で活躍している人達が集まつており、年齢層も幅広く性別も関係なく、芸術の話をごつくばらんにできます。

——そういう横の関係、大切ですね。絵は一人でも描けますが、社会とのつながりの中で、共通の話題で話ができる関係は、心の栄養剤”だと思いますので。
村相さん ええ。本当に大事にしたいと思つています。
——会社人間の夫が定年になると、毎日が日曜日”で、何をしたいのかわからない。その姿に周りが神経をピリピリさせることがあるようです。村相さんの場合も仕事一筋の方だつたと思うのですが、定年前から準備をなさつていましたので、そういうことは無かつたのでしょうかね。
村相さん 私も定年後について、しっかりと受け止めていなかつたら、たぶん、戸惑つたと思います。幸いなことに、定年前から絵を描き始めていましたから、定年になつた時「さあ、これで描きたいだけ描けるぞ」と思つたものです。
——それは、ご家族の安心にもなつたでしょうね。絵を始めることで、ご自分の中で変わられたことつて何かありますか。
村相さん ものを見る目がだいぶ変わったと思います。私は風景画を好んで描いています。描くときは、事前に景色のいい所を探して、五月の何日ごろ雪が解けるといふことまで調べ、解ける寸前を見計らつて出掛けます。会社勤めのころは、風景を見ても何となく見ていたんですね。絵を描くよう

ほんねインタビュー

川崎は絵になるまち もつと欲しい発表の場

になって、いろいろこだわって見るようになりましした。

——どのようなこだわりですか。
村相さん 油絵を始めたころは、紅葉の時期など、色のはっきりした風景を描きましたが、今は季節



の静かな移り変わりが感じられるようなものを好んで描くようになりました。時間と気持ちの余裕ができたお陰で、今まで見えなかったものまで目に入るようになったという感じです。

——定年とか、高齢社会については、多くの方が灰色のイメージで受け止めていたと思うのですが、村相さんのお話をお聞きして、受

け入れ方次第ではまんざらではないという気がしています。

村相さん そうです。仕事人間としての定年であって、人生はまだまだこれからですから、自分に合った何かをしなくてはいいけません。

——男性がもつと地域に目を向けて、さまざまなコミュニケーション・ギャップの解消に努力してほしいとの声が強まっていますか。
村相さん 十七、八年前から川

崎市に住んでいます。会社勤めのときは、正直に言って川崎のことも地元・岡上のこともあまり興味があつたと思いません。この数年は「絵のモチーフがたくさんあるまち」と感じています。これから、地域のいろいろなことを勉強していきたいと考えています。

——家庭や地域のことを女任せにしないで、男も積極的に参加すべき、との声も聞きますが。
村相さん 市民館の絵画サーク

ルの作品展を、時々拝見していま

すが、その中には「風景なら何でもいい」と感じる作品もたまにあります。やはり、場所とか季節とかは制作できません。講師がいな絵画サークルもあって、会員が制作するとき、迷っている気がします。私は「アドバイスできたらいいな」と思っています。

——絵を描くということ、事前調査ということが、なかなか結び付きませんでした。大事なことなのですね。村相さんがお住まいの麻生区というのは芸術、文化に力を入れているまちですけれど、どうご覧になっていますか。

村相さん 麻生区には、画家だけでなく、多くの芸術家が入っています。それだけ魅力のあるまちと言えるのではないのでしょうか。また、画家にとって、題材になるよい景観の場所も多いと思います。また、市民館のギャラリーやホー



伊藤 眞弓 さん

いとう・まゆみ=米国 Grand View College 卒。声優・北川智繪主宰「話芸写」の「語り」と上演音楽を担当。英語教室を主宰し、声の仕事や難民支援のチャリティー語りも。川崎に住んで28年。自宅は中原区新丸子。

ルがいつもいっぱいいて、私個人としては困るのですが、市民の芸術に対する意識が高い表れとも考えられます。いろいろな活動をする人が多ければ、発表したい人も多はずです。ところ、川崎駅前には素晴らしいギャラリーがあるようですが、高津区や麻生区の駅前にもミニ美術館のような立派なギャラリーがあるといいですね。

題字は高橋清・川崎市長
構成／富樫 恭子
文責／田中 園

10月号「いまを話す」の訂正
4ページの見出しで「10万3千養成が柱」とありますが、「1万3千養成が柱」の誤りでした。訂正しておわびします。

はりきってます グループ紹介

仲間と楽しむ 学び 活動する 生き生きと。



活動は共生の視点
文通で技術を磨く

な点字用紙を固定。一マスに六つの凹凸がある点字定規をはさみ、点筆を使って点字を裏面から打つ。用紙右側を約五割山折りにし、右から横書きにする。

視覚障害者の堀内代表が「今日は、この文を打つてみて下さい」と特製カセットテープを再生する。「来年」「階段」の音が流れ、一単語ごとにカセットを止める。会員は点字一覧表で字を探し点字を打つ。紙に顔を近付けて打つ人、カセットの声と同時に定規のマスに左手の指を添え点筆を動かす人。

五単語を打ち終えたころ、堀内代表が「どうか」と、経験の浅い会員が打った点字をチェックする。「点字では、お田さんは『おかあさん』ですが、お父さんは『おとーさん』になります。お父さんは仕事で疲れ、のびちゃったんです」とジョークを交え点字のルールを話す。そう覚えると忘れないうわ」と会員。ベテラン会員が新人会員へ「そこまでは、バッチリです」と励ましの声をかける。

休憩時間は、盲導犬や電車のホームの危険性など視覚障害者の生活を気遣う話し合い。聞いたら失礼かな、とためらうことも堀内先

生には聞けます」と会員がいうように、共生の視点からの理解と率直な対話が活動の根底にはある。

会員は、点字が打てるようになる堀内代表に手紙をおくる。必ず堀内代表から添削された文と一緒に、近況をつづった点字とかなタイプの返事がくる。この文通は、会員に読み書きの上達だけでなく、共生の素晴らしさを教えている。

同会の発足は三年前。同センター「ボランティア大学」受講者が、講義を点字でメモする堀内さん夫婦を見て、点字に興味を持った人が集まり誕生した。

加藤裕聖さん(65)は「頑張つて覚え、一日も早く盲人の方と文通をしたい」と意欲を燃やす。

徳永裕治さん(47)は「会員に会うと、リフレッシュします。点訳本を読み、勉強している段階」。

堀内代表は「全盲の人は、前に何かあるかを考えては外出できません。点字も間違えを気にせず、多くの人に学んで欲しい」と話す。同代表宅は幸区小倉一六三〇、小倉西住宅三の二一〇、☎(588)0628。

六つの集まり

点字サークルポツポツ会 (中原区)

点字を学びながら、視覚障害者の生活を理解し、まちで杖を持つた人に出会った時の手助けを実践する「点字サークルポツポツ会」は、まず、会員は点字盤に厚紙のよう

堀内功代表(62)ら二十人。

活動は毎月第四土曜の午後、中

原区の川崎ボランティアセンター。

まず、会員は点字盤に厚紙のよう

休時間は、盲導犬や電車のホームの危険性など視覚障害者の生活を気遣う話し合い。聞いたら失礼かな、とためらうことも堀内先

文 / 小誌・山本綾子
カメラ / 小誌・菅原純子

はりきってます グループ紹介

本いもご井新ひんりん励ま

ぐみの家 (宮前区)

「ぐみの家」は、平たくいえば「主婦六人が、健康によい安全でおいしいお弁当を作り、配達しているグループ」。学習会で学んだ食の安全性などを地域で実践するには「家庭生活と地域活動を手抜き無しで両立させる仕事が必要」と考え、「食材と味にこだわる主婦が作るお弁当」をつくり続け、いまでは地域のお年寄りや健康に不安のある人たちにもてもて。

宮前区の住宅街の一角。ガレージを改造した調理場が、ぐみの家の依頼で、お昼までに十二個の弁当を届ける。前日に野菜の下ごしらえを済ませ、朝から調理に取りかかった。さびさびと動き回る。高野豆腐にすりみを詰めて炊く、太刀魚に塩と酒をふりシソを挟んでまく、アイガモと生心を金ぐしに刺しタレをつけてグリルで焼くなどの作業が並行して進む。調理場は湯気と熱気でいっぱいだ。熱

練した手さばきで次々と作り出される料理。食欲をそそるにおいが立ち込める。「白あえに使うゴマはよくすった方がいいよ」揚げ物は

半分に切った方が食べやすいわ」「年配の人が多いというから、赤飯は少し軟らかめがいいね」と細やかな気配りも忘れない。一時間後、赤飯、煮物、焼き物、酢の物、蒸し物、和菓子など二十種類の料理が、松花堂型の弁当箱に彩りよく盛り付けられた。発足は十四年前。地域の学習会で食の安全性や健康、環境問題、

自立などを学んだメンバーが「学んだことを生かして、自分達の納得のいく食づくりをしよう」と、お金を出し合って始めた。やがて「多種類で野菜たっぷり献立」が口コミで広がり、地域の会合や個人の行事に仕出しを頼まれ、今では知的障害者の生活寮や一人暮らしの老人の夕食配達なども行っている。

鈴木婦津美さん(53)は「安全で健康的な食づくりのために、材料にも気を配っています。加工品は使わず手作りです。手間を惜しまないのがぐみの家流」。

「ぐみの家が生活の大半を占めています。夫もずいぶん協力してくれます」と友納緑さん(66)。

黒田美智子さん(56)は「責任ある仕事ができうれしい。メンバーは対等で、自分達の裁量でやれるのがいいですね」。

武田若子さん(64)は「地域福祉を視野に入れ、介護について深く学び、ぐみの家をホームヘルパー派遣の拠点にしたい」という。

連絡は宮前区初山二の一七の九
☎(0976)4256のぐみの家。

文 / 小誌・菅原純子
カメラ / 小誌・井上徳子

学んだ食文化を
地域活動に生かす



仲間と楽しむ

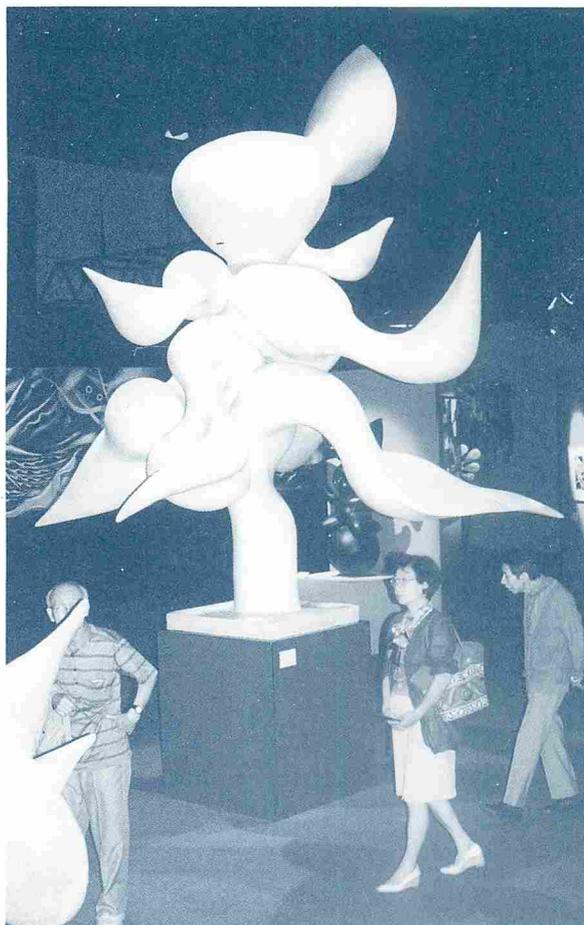
学ぶ

活動する

生き生きと。

'97 TARO展に市民、ファンぞくぞくと…

大胆な発想 心包む温かさ



2年後の岡本太郎美術館オープンに向け「'97TARO展 新しい美術館の創造と発信」が9月27日から8日間、新百合21ホールであった。

初日は土曜日とあって家族連れや若いカップル、お年寄りら450人が訪れた。川崎の工場をスケッチした「重工業」や「森の掟^{おきて}」などの絵画12点と、「縄文人」「午後の日」などの彫刻約13点を食い入るように鑑賞した。一枚の絵画を距離を変えて見る中年男性。彫刻「動物」の顔をのぞき込む3人連れの女性。見る位置によって光と影が作り出す空間が変わり、鑑賞者のイメージを膨らませる。

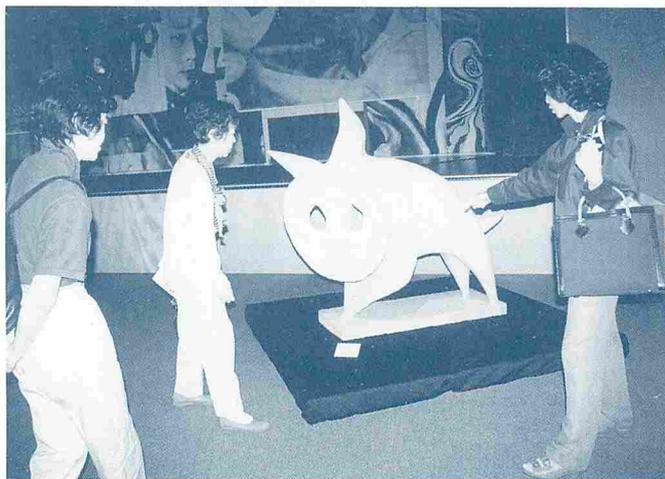
岡本太郎の大胆で斬新な発想、哲学に共鳴の声が多く、埼玉県春日部市から来た石井匠さん(19)は「自分が生き方で悩んでいた時、図書館で太郎さんの本を読んで生きるヒントを与えられた。作品は写真集で見てきたが、本物は、強烈に迫るものがあり、包み込んでくれるような温かい感じがした」と興奮を隠さない。

麻生区の乾襟子さん(55)は「岡本太郎作品を一堂に見たのは初めて。凡人は枠にはめられ生きようとするが、岡本太郎の自由な発想で縛られない生き方に感動した」という。

小金井市から来た長針浩之(37)眞奈美(28)夫婦は「作品に生命力があり力強さがある。岡本太郎さんの生き方そのものが芸術的で理想です」とうなずく。

麻生区の北條文子さん(82)は「絵画も彫刻も、躍動的で色彩がきれいだと思った」と素直に感想を話す。

また、ロビーでは岡本太郎の制作風景や日常生活を撮ったビデオ上映があった。市民は、太郎がキャンパスに絵筆を運ぶ時の大胆さと力強さに驚いたり、のんびりとショパンの曲をピアノで奏でる姿に魅せられていた。



学習・文化情報

探していた講座がある

講座・講演

〔普通救命講習◆麻生消防署〕11月20日(木)14時から

心肺蘇生法、止血法を実践で学ぶ。無料。先着30人。上履き持参。申し込みは11月6日(木)までに☎(951)0119の同署・救急係。

〔講演会◆日本女子大学西生田キャンパス〕11月8日(土)14時から。チャレンジはおもしろい。人生80年時代」と題し、金森トシエ・元読売新聞婦人部長が話す。参加費千円、学生は無料。有料の保育あり。申し込みは☎(866)8285の

谷村さん。読売ランド前駅下車。同大学教育学科の会・文化部主催。

〔わくわく実験教室◆東芝科学館〕11月8日(土)10時と13時から。どうして回るの? モーターのお話」をテーマに実験を交えて解説。写真は過去の同教室。無料。各250人。申し込み

は☎(549)2200の同館。川崎駅からバス。



〔①建築図面を読み解く

②建築と日本文化③わらわら工しめ縄作り◆日本民家園〕①は11月28日、12月12日の毎週金曜13時半から、全3回。講師は大野敏・同園技術職員。2千円。40人(抽選)②は12月7日(日)13時半から。伊藤ていじ・建築史家が講演。千円。40人(抽選)③は12月7日(日)14日(日)10時から。各日千円。各30人(抽選)。申し込みは

①11月14日(金)②22日(土)③28日(日)までに往復はがきに住所、氏名、☎、講座名、講座日を記し〒214多摩区枳形7の1の1、同園。☎(922)2181。

〔日産自動車座間工場の大転換と世界戦略◆和光大学ぱいでいいホール〕11月14日(金)19時から。現状を検証し、今後の展望を考える。講師は桜井清・同大学教授。7百円。先着50人。申し込みは往復はがき(1人1枚)に同講座聴講希望、住所、氏名、年齢、職業、☎を記し〒195町田市金井町2160、同大学総務課大学開放係。☎(988)1433。鶴川駅前。

〔中国気功健康法を学ぶ◆登録ドレズメーカ学院〕11月19日(水)10時半から。体験をしながら自然治癒力を高める。講師は中村誠・世界医学気功学会会員。千円。先着20人。動きやすい服装で参加。申し込みは午前中に☎(911)2221の同院生涯学習部。向ヶ丘遊園駅下車。

〔成人学校〕地球温暖化◆麻生市民館〕11月11日、12月16日(9日を除く)の毎週火曜13時半から、全5回。温暖化が生態系に与える影響、地球温暖化防止京都会議をめぐる世界の動き他について考える。講師は熱帯林行動ネットワークの小倉正さん、環境庁国立環境研究所の川島康子さん他。対象は15歳以上。2千円。先着35人。申し込みは☎(951)1300の同館・中村さん。

〔平和人権セミナー◆麻生市民館ほか〕11月8日、12月6日の毎週土曜10時から、全5回。暮らしを見つめ直し、外国人、障害者、子供の人権を考える。講師は市ふれあい館の原千代子さん、柴田保之・國学院大教授ほか。対象は15歳以上。無料。先着40人。8、22日の会場は、市生涯学習振興事業団。申し込みは☎(951)1300の同館。

〔まちはミュージアム〕都市化が進む中で◆麻生周辺の野外〕11月16日(日)9時半からと、11月23日、12月7日の毎週日曜10時から、全4回。麻生の鎌倉古道、神社、公園を歩き、新しいまちづくりにどう参加出来るか考える。資料代・保険料各3百円。交通費は実費。先着各40人。弁当持参。申し込みは、開催日の7日前までに☎(951)1300の麻生市民館。

〔デッサン教室◆市市民ミュージアム〕12月7、21日の毎週日曜13時から、全3回。石こう像など静物を題材に美術表現の基礎を学ぶ。講師は画家・井口啓さん。対象は初心者、中級者。4千5百円。25人(抽選)。申し込みは11月11日(火)までに往復はがき(1人1枚)に住所、氏名、☎、返信部分のあて名を記し〒211中原区等々力1の2、同館・同教室。☎(754)4500。

〔パウハウスの写真〕講

市外同番のないものは044

学習・文化情報

学習・文化情報

参加したい催しがある

演会◆市民ミュージアム」12月6日(土)13時半から。「モダンズムとナチズム」と題し、ロルフ・ザクセ写真史が話す。無料。先着270人。申し込みは☎(754)4500の同館。

「講習会◆市緑化センター」①11月26日(水)、庭木の剪定。無料②12月3日(水)、春の七草の鉢作り。700円③12月12日(金)、正月の寄せ植え(松竹梅)。5千円。いずれも13時半から。各30人(抽選)。申し込みは①11月17日(月)②21日(金)③12月3日(水)までに往復はがき(1人1枚)に講習会名、住所、氏名、☎を記し〒214多摩区宿河原6の14の1、同センター。☎(911)2177。

「こども体験教室」わら細工◆日本民家園」11月22日(土)10時から。正月飾りを作る。対象は小中高生。無料。先着10人。申し込みは11月1日(土)から☎(922)2181の同園。

「ボランティア養成講座◆日本民家園」来年2月10日～3月31日の毎週火曜10

時から、全8回。古民家の解説、いろいろの火だき、資料整理など基礎を学習。対象は、65歳までで講座修了から5年間、毎月1回、土・日曜に活動できる人。無料。60人(抽選)。申し込みは来年1月17日(土)までに往復はがきと同講座申し込み希望、住所、氏名、年齢、☎を記し〒214多摩区枳形7の1の1、同園。☎(922)2181。

「椎名誠講演会」私の小説世界◆多摩市民館」12月14日(日)18時半から。無料。90人(抽選)。申し込みは11月18日(火)までに往復はがきに住所、氏名(2人まで)、☎を記し〒214多摩区登戸1775の1、同図書館か直接来館。☎(935)3400の同図書館。

「フランス・ヌーヴェルヴァーグ時代の映画◆市民ミュージアム」11月8日(土)①気狂いピエロ②修道女▽9日(日)①絹の瞳②大通り▽15日(土)①モラン神父②悪



意の眼▽16日(日)①3-7小队②絹の瞳。上映開始は①13時半②16時。料金は一般500円、小中学生300円。(11月2日(日)16時は「クラブ・タンブル」に変更)☎(754)4500同館。

「①炉端で語る昔話②お茶席の会③園内古民家解説ツアー◆日本民家園」①は11月8日(土)11時と14時。佐々木家。新潟地方の民話「やさぶろうばさ」②は11月15日(土)10時から、佐々木家。一服300円③は11月21日(金)、24日(休)いずれも13時～15時、原家集合。民家の特徴や見どころを職員が分かりやすく解説。②以外無料。入園料必要。問い合わせは☎(922)2181の同園。

「友愛セール◆ひかりの家」11月29日(土)、30日(日)10時～15時。民間福祉作業所「ひかりの家」(古沢妙代表)の手作りクッキー、ケーキ、キャラメル、和紙工芸品と日用雑貨など格安で販売。問い合わせは☎(455)0538のひかりの家。南武線平間駅下車。

「写真教室◆タワリーパーク」①11月26日(水)②27日(木)③28日(金)とも14時～15時半。場所は20階健康センターの映像学習室。内容は①コンパクトカメラの上手な使い方②接写の極意③すばらしい自然の撮り方。無料。主催は日本写真作家協会。問い合わせは☎(222)8821の市文化財団。

「①星を見る夕べ②天体写真撮影会③自然観察会◆市青少年科学館」①11月8、29日(土)17時半から。月、木星を観望。雨、曇りはプラネタリウム②は12月7日(日)18時から土星を撮影。雨天中止。一眼レフカメラボディなど持参。定員14人③は12月7日(日)13時半～15時半。生田緑地のコケを顕微鏡で観察。筆記用具・雨具持参。定員20人。いずれも無料。申し込みは①当日直接来館②は11月9日(日)9時から③は11月18日(火)9時から☎(922)4731の同館。

「岡上分館サークル祭◆岡上分館」11月9日(日)10時～15時。同館で活動するグループの発表。太極拳の実

演や陶芸・水彩画・書道などの展示。問い合わせは☎(988)0268の同館。

「KCセンターまつり◆市青少年創作センター」①11月15日(土)②23日(祝)10時～17時、作品展示会。陶芸・絵画・七宝焼など②11月23日(祝)10時～16時。茶道体験▽紙工作。無料。事前申し込み不要。問い合わせは☎(911)1510の同センター。

「①親子はた織り教室②親子工作教室◆市青少年創作センター」11月23日(祝)10時～16時①テーブルセンターを織る②木で作る小物。定員は親子10組(対象は小学生)。費用は子供ひとりにつき600円。申し込みは往復はがきに〒住所、保護者名、子供名、☎、希望教室名を記し11月10日(月)までに〒214多摩区三田2の3303の1同センター。問い合わせは☎(911)1510。同館。

「国際語エスペラント・フェスティバル◆市国際交流センター」11月30日(日)10時半～16時。立川健二立

学習・文化情報

ききたい音楽がある

ステージ

教大助教授の「言語ナシヨナリズムとエスペラント」の講演やエスペラント語による懇談。通訳付き。参加費千円(軽食付き)。先着80人。申し込みは11月24日(月)までに☎(533)1906の北川さんかFAX0427(36)7809の宿野部さん。主催は川崎エスペラント会。

◆「中身館フェスティバル」市中部身体障害者福祉会館」11月16日(日)10時～15時。雨天決行。リサイクルバザー、模擬店、ビデオ上映会、点訳・手話体験など多彩な催し。問い合わせは☎(733)9675の同館。

五郎部俊朗のテノール独唱とトーク。前売り2千円、当日2千3百円。チケットは☎(244)5537のヤマハミュージック川崎。問い合わせは☎(860)1787の川崎音楽文化連盟。溝ノ口駅下車。

◆「日本の抒情をうたう」サントリー・小ホール」11月16日(日)14時開演。メゾンブラン越賀理恵、テノール早瀬一洋のデュオリサイタル。山田耕筰「からたちの花」平井康三郎「日本の笛」など。全自由席4千円。問い合わせは☎03(5466)3185の日本オペラ振興会。千代田線赤坂駅下車。

◆「中国民族音楽の祭典」多摩市民館」11月21日(金)18時半開演。中国最古の打楽器である編鐘の演奏など。「荒城の月」「草原情歌」ほか。全自由席。前売り2千円、当日2千3百円。問い合わせは☎(953)2255の今川さん。

「川崎混声合唱団定期演奏会◆麻生文化センター」11月16日(日)14時開演。団員の創作曲▽宗教曲モーツァルト「レクイエム」▽ドイツの歌「うぐいす」。千円。問い合わせは☎(511)3858の佐久間さん。

「麻生フィルハーモニー管弦楽団の定期演奏会◆麻生文化センター」11月9日(日)14時半開演。ヴェルディ歌劇「運命の力」序曲、ブラームスの交響曲ほか。指揮は三石精一、ピアノは斎藤雅広。全自由席千円。問い合わせは☎(955)1953の横須賀さん。

「ひびきあう心のハーモニー◆高津市民館」11月9日(日)14時開演。平均年齢75歳の津田山福寿会コーラス部による混声合唱。「ふるさとの四季」「東京物語」▽「エデンの東」「二人でお茶を」ほか。無料。問い合わせは☎(833)3470の山本さん。

「川崎市定期能◆川崎能楽堂」12月13日(土)①14時開演。清経「出演は本間英孝」②16時開演「杜若」出演は前田晴啓。各公演前にドナルド・キーン「日本文化と能」の講演あり。①②各3千5百円。チケットは11月

13日(木)より同堂にて。問い合わせは☎(222)8821の市文化財団。

「女声合唱団コロファンタジア定期演奏会◆こまばエミナース」11月23日(木)13時半開演。「平和への祈り」「夏の思い出」ほか。指揮片野秀俊、ピアノ古川佳園。全自由席千2百円。問い合わせは☎(911)4714の斎藤さん。京王井の頭線駒場東大前駅下車。

「親子劇場◆会館とどろき」12月7日(日)10時半と13時半。あつと驚くからくり人形芝居「きんたろうピカピカ」。人形劇団ひとみ座。各3百人。6百円。チケットは11月17日(月)～12月6日(土)8時半～16時半、同館にて販売(電話で予約可)。☎(733)3333。

「警女唄の会 inかわさき◆川崎能楽堂」12月20日(土)18時半開演。竹下玲子の三味線の弾き語り。「佐倉宗五郎」「雪女」「ござ民謡」ほか。指定席2千円。チケットは☎(511)4951の京浜協同劇団。

「定期演奏会◆洗足学園

大学」生徒による演奏会①11月12日(水)18時「シューベルト歌曲の夕べI」②19日(水)18時「シューベルト歌曲の夕べII」③21日(金)18時ピアノの「ウィレム・ブロンズコンサート」場所は講堂④同18時半「シンフォニックウインドオーケストラ」⑤25日(火)18時半「アカデミー室内オーケストラ」⑥29日(土)18時半「プリティッシュ・ブラス」③以外は前田ホール。④⑤⑥は千円。その他は無料。問い合わせは☎(856)2981の同大学演奏部。JR溝ノ口駅下車。

ギャラリー

「会館とどろき」11月23日(祝)まで、市内公立の「退職教職員作品展」①4日(火)から書道・園芸②11日(火)から短歌・俳句・生花③18日(火)から絵画・彫刻▽11月24日(休)～12月6日(土)、北海道中標津町農業写真展。問い合わせは☎(733)3333。

「スナック喫茶琴」11月

学習・文化情報

やりたいスポーツがある

29日(土)まで、北直子油絵展。風景画と静物画。問い合わせは☎(544)0507。鹿島田駅下車。

「中村正義の美術館」11月8日(土)〜12月7日(日)「山下菊二と正義」展。正義の『人物』シリーズ、親交の深かった画家の山下菊二の『19歳〜良子の家』写真展。一般500円、学生300円、小中学生200円。☎(953)4936。読売ランド前駅からバス。



「市民ミュージアム」11月23日(祝)から、パウハウスの写真展。ドイツモダンデザインの造形芸術学校の教師と学生の写真300点。一般300円、小〜大学生百

円。☎(754)4500。「かわさきIBM市民文化ギャラリー」11月20日(休)〜12月16日(火)、さまざまな眼189「仮面ライダー」。稲憲一郎・倉重光則・みわはるきの三人による作品。無料。☎(233)3400。川崎駅東口下車。

「アートガーデンかわさき」11月25日(火)〜30日(日)、日本写真作家協会展。全国の写真作家による風景、人物、報道写真400点。☎(222)8821。川崎駅東口下車。

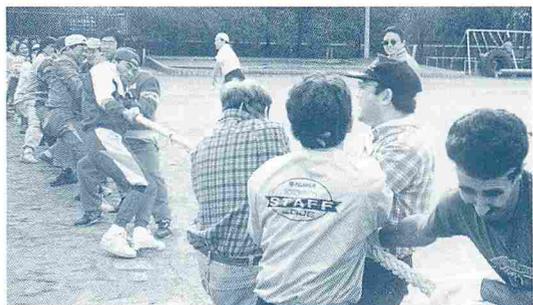
「ギャラリー幸」11月12日(水)まで、精鋭6人展。若手版画家の作品▽11月14日(金)〜26日(水)、青木齋の木版画展。神奈川版画フェスティバル参加。☎(555)8181。川崎駅西口下車。

「画廊ランブ屋」11月8日(土)〜21日(金)、スペインの作家たち。ピカソ、ミロ、タピエス、ゴヤのオリジナル版画展。神奈川版画フェスティバル参加。▽11月29日(土)〜12月7日(日)、松田重仁彫刻展。多摩区在住で同区役所にあるモニュメント

の制作者の木彫品。☎(945)4416。稲田堤駅下車。

スポーツ

「ザ・運動会◆下作延小學校」11月9日(日)10時から。綱引き、玉入れなどの競技を通して、外国人と交流をはかる。写真は去年。対象は市内在住・在勤・在学の外国人と家族、市民。雨天は同校体育館。申し込みは☎(822)0300の高津青年会議事務局。JR南武線津田山駅下車。



会員募集

連絡は☎(822)6944の同代表宅。

●木月拳美会《川崎区池上町8の10、浅川千江子代表》ゆったりと動く太極拳で、肩こり、腰痛も楽になります。例会は毎週火曜9時半から、市国際交流センターほかで。年会費5千円。1回600円。連絡は☎(266)2858の代表宅。

●多摩油彩研究会《麻生区王禅寺663の124、野村英之代表》人物と静物を描いています。渡部敏郎先生の指導で和気あいあいと腕を磨いています。麻生市民ギャラリーで発表会も。例会は月3回火曜の13時半から、麻生市民館。入会金3千円。月会費は4千円。連絡は☎(988)3120の倉沢よし江宅。

●書友会《中原区新丸子東2の980、富澤昂樹代表》毛筆で自分の名前を書きませんか。仲間と楽しく学んでいます。活動は第2・4金曜14時から市総合自治会館。入会金・月会費各3千円。連絡は☎(433)5443の古田亮子宅。

●久本拳朋会《高津区坂戸3の11の57、瀬野静江代表》太極拳で心地よい汗を流しませんか。体調が良くなり、生活も楽しくなります。初心者歓迎。毎週水曜9時半から、久本会館で。年会費5千円、1回600円。

●多摩拳麗会《多摩区三田3の1、2の6の103、小野尚美代表》太極拳で心身とも健康な体を維持しませんか。見学歓迎。例会は毎週水曜10時半から、多摩市民館ほか。年会費5千円、1回600円。連絡は☎(933)8306の代表宅。

ミニニュース

愉快的歌と踊り

ゆりがおか児童合唱団
「かわさきの天使の歌声」
「ゆりがおか児童合唱団」
(山田榮子指揮)の定期演奏会が麻生文化センターであり、夏休み最終日の夕にもかわらず、親子連れら800人が客席を埋め、子供

たちの透き通ったハーモニーに陶醉した。

毎夏、歌い踊る愉快なステージの今回は、ビゼーの「子どもの遊び」。「ラッパと太鼓」で、高校3年の4人を先頭に「トコロロンバララン 鼓笛隊…」と

小中学生たちが後に続き行進する。「舞踏会」では、西山淳子さんのピアノに乗って、団員たちは手をとり、腕を回しステップを踏み、舞台いっぱいには広がり踊る。石井かほるさんの演出・振り付けが光る。観客も体を揺らし手拍子を打ち、ステージと市民が一つに溶け合った(Y)。

宇宙、生命がテーマの杉本、清水両氏の彫刻

二科展

「二科展」が9月に、東京都美術館などであり、現在、小誌表紙絵を飾っている杉本繁さんと、昨年まで川崎の四季を表紙絵で19回描いた清水幹子さんが彫刻を出展した。

杉本作品は「Expansion Form'97」。いくつかの小さな金属のリングが合

体し、大きなリングに形成。ところどころに輪を遮断するアクセントを付けた作品

で「宇宙をイメージし、混んとしている自分、社会を表現した」。

清水作品「白神一春」は、石こうによる裸婦の彫像。

頭の上で両手を組み、体のなだらかで自然な曲線とち密に彫られた穏やかな表情は、生きる貴さと喜びを醸し出す。昨年度の「彫刻の森奨励賞」受賞作「白神一冬」以上に、鑑賞者にやすらぎを与えた(Y)。

骨折り損のくたびれ 儲けにならないよう

「骨粗しょう症」予防が、高齢者が健康で過ごす重要なポイント。

その予防の第一は、骨量が最大になる18〜45歳時にカルシウムを取り、骨の貯金。次にカルシウムの吸収を助けるビタミンDの摂取

しかし、適度に日光に当たらないとカルシウムを体に吸収させるための活性型ビタミンDにはならない。「高齢者は1日30〜60分、週3〜7回の散歩を」と折茂肇

・都老人医療センター院長(老年医学)は強張する。日に当たり散歩をしないと、食物で骨貯金をしたつもりが「骨折り損のくたびれ儲け」になる。毎日新聞

9月4〜6日付「しのび寄る成人病」から(Y)。

いじめの背後に!!

青木悦さん講演

「いじめの背後にある子供たちのころ」と題するジャーナリスト、青木悦さんの講演が9月上旬、福祉バルあさおであった。

子供たちの「いじめ」はひどくなる一方だが、いじめられた子供は親に言えず、追い詰められている。その原因は「子供は親の言うことを聞く、いい子」でいようと、親が作り上げた「幻の子供像」を崩さないよう「努力」ストレスが溜まり、そのはけ口が「いじめ」につながる。指摘。

「僕の間を返せ」と言いながら親を殴る小6の少年は、かつては親が決めた塾や習いごとに通う従順な子供、との実例などを挙げ、家庭内暴力やいじめに直面

した親と子供を取材したことをベースに話した。

質疑で「うちの子供が、皆が塾へ行っているから自分も、と言いますが…」との不安については、「子供が興味を持つのは当然のこと。

親が周りに合わせるのではなく「大丈夫」と答え、「子供の人生を親が決めることは子供の権利条約に反します」と結んだ。

子育てサークル「P・M・C」の主催(I)。

〈出演〉



●巫 謝慧 (胡 弓)



●アンサンブル・サウルス ●ピアノ 村上 由紀

宮前区に生活ホーム設立の支援チャリティーコンサート

12月9日(火)午後7時開演
宮前市民館大ホール

■全席自由 ￥3,000

〈曲目〉

蘇州夜曲 埴生の宿 花
クリスマス・ソング ほか

●☎(855)0111 鷺沼ミュージックセンター
■主催 宮前区精神保健と福祉を考える会他 (会長・長谷川和夫聖マリアンナ医科大学長)

編集後記

文部省が、小中学校で十二年ぶりに行った「新学力テスト」の結果は、自分で深く考え、表現する「思考・表現力が依然として弱い」であった▼この思考・表現力が弱いのは子供より大人のよくな気がする▼詰め込み教育の弊害で「子供たちが何かに追われているような生活」▼小誌十月号「編集後記」(菅)Ⅱをしているのに、各教科の学習内容を検討しない▼橋本改造内閣は、佐藤孝行さんを総務庁長官に任命したり、辞任させたり▼この二つの事柄は無関係のように見えるが「子供の生活実態を見よう」としない▼「国民の有罪確定しても反省しない議員への怒りを見よう」としない▼であり、当事者のメッセージの表現が貧弱な点でも似ている▼ところで、故マザー・テレサの生涯は、貧しき人々へ献身的で持続的な愛と行動に貫かれていた▼だから、世界中の人々が、思想・信条・信仰の相違を乗り越え厳粛な気持ちにさせた▼一方、故ダイアナ元妃は、美しい容姿と「金魚鉢の中にいるような生活から解放された」など大衆へのアピールが巧みで世界的スターになった▼しかし、金魚鉢の生活を選んだのも死亡原因である車の猛スピード

を押し止できなかったのもダイアナさん自身であり、マザーの死と彼女の死を同等に扱うのはいかなるものか▼さて、豊かな日本では他人の不幸を「大金を出さなければ助からない」と脅かすニセ宗教が後を絶たない▼まじめな宗教が、ゼニカネで人の命や幸せを左右するはずがない▼思考力とは、とどのつまりは自分の頭で考え行動することだ▼先日、あるお偉いさんが報道関係者の冗談をまともに受け取り大騒ぎになった、話を聞いた▼それは、ある冊子の添え状に市長の氏名が記されているのを見たA記者が「公職選挙法の『公職候補者等の寄付の禁止』に違反しないか」と職員に質問した▼「なぜですか」▼「冊子は無料で作れないから、配布は寄付になるんじゃないの」▼その職員が「権威ある報道機関の記者のお言葉」と思ったかどうかは定かでないが、間もなく、その添え状は回収され、市長氏名が削除されて「名無しの添え状」にかえられた▼選挙前であっても、通常市長の氏名が記されていて、配布も通常通りなら公選法に抵触しない▼お偉いさんが勝手に権威を作り出し、心のなかの亡霊を徘徊させたようだ▼試行錯誤はいいが、思考力・調査不足は困ると思っていいたら「お得意の問題先送りさ」の声?!(田)。

●発行 (財)川崎市生涯学習振興事業団
電話 044(952)5000代
〒215 川崎市麻生区万福寺一の二の二、新百合21ビル
FAX 044(952)1350 編集人・田中 園

比べて納得、選んで満足の人気者。

■マイカー購入に **カーライフローン**

資産を活かすと、余裕ができる。

■ **生き活きローン**

必要なとき、スグ引き出せる。

■ **マイプラン**

早めの予約でおトクに借りる。

■ **教育ローン**



インターネットでも(ろうきん)の情報がご覧いただけます。
アドレス <http://all.rokin.or.jp/>



借りたいのは、何ですか？

ろうきんの場合、よりよい相談相手であることも、サービスのひとつです。

ROKIN LOAN

★お問い合わせ・ご相談は、お近くの神奈川県労働金庫<ろうきん>へどうぞ。

川崎支店 ☎ 044 (244) 8331

中原支店 ☎ 044 (733) 0161

川崎南支店 ☎ 044 (277) 8211

新百合丘支店 ☎ 044 (989) 1111